

前期計画における事業の現状と課題

1 豊山町を取り巻く社会的変化とまちづくりの主要課題

① 少子高齢化への対応（※1）

- ・少子高齢化や人口減少が進み、児童虐待相談や不登校が最多となるなど、子どもを取り巻く状況も深刻となる中、国ではこども家庭庁が発足し、こども基本法が制定され、こども未来戦略方針が示された。
- ・本町においては人口の増加傾向が緩やかとなり、少子高齢化が進んでいる状況にある。
- ・とりわけ近年では、出生数が大幅に減少するなど人口減少の兆しがあり、出生数を増やすために、結婚や出産、子育てなどに関わる支援を強化していく必要がある。
- ・また、超高齢社会の進展に伴い、健康寿命を伸ばす介護予防に向けた健康づくりを一層推進していくとともに、介護が必要になった時でも身近な場所において地域で支え合いながら安心して暮らすことができる場を確保していく必要がある。
- ・さらに、若者、子育て世代が定住して暮らしたいと思う良好な住環境やまちの魅力を高めていくことが求められる。

② 危機管理への対応

- ・昨今の猛暑、集中豪雨、今後発生が予想される南海トラフ地震などの災害のリスク等に対して対応できる強靱なまちづくりが求められる。
- ・現在、本町では県による基幹的広域防災拠点（※2）の整備が進められており、また、名古屋空港の広域防災拠点も含め、災害に強い地域としての役割を果たせるよう基盤づくりを進める必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症での経験を活かし、各種事業については、新たな感染症のリスクを踏まえた対応が求められる。

③ 持続可能な社会への対応

- ・国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体でゼロにするカーボンニュートラルを目指すことを宣言した。これを踏まえ、県は、2030年度までに県の温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減する目標を掲げた。
- ・地球温暖化による気候変動への対応、再生可能エネルギーの活用、資源循環型社会の構築など、持続可能性を高めるための取り組みをより一層推進していく必要がある。
- ・さらに、2030年を目標とするSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた施策の推進も求められている。
- ・本町においては、家庭系ごみはここ2年減少傾向にあるものの、事業系ごみが増加傾向にある。（※3）また、可燃ごみの1人あたりの排出量は愛知県内で下位となっており、持続可能な社会の実現に向け、行政、企業、住民それぞれの主体が減量化への意識を高

めていくことが必要である。

- ・公共施設については、高度経済成長期に整備された施設などは耐用年数を迎え、老朽化が進行しており、今後、施設の更新が必要となる。さらに、町避難所・賑わい施設の整備が控えており、限られた財政の中で、計画的に施設の統廃合、集約化、長寿命化、民営化などを行うファシリティマネジメントを行っていく必要がある。

(※4)

④ DXへの対応

- ・新型コロナウイルス感染症のまん延でデジタル化が急速に普及し、リモートワーク、インターネットの活用、キャッシュレスなど、暮らしが大きく変化した。
- ・少子高齢化の進展で、労働人口が減少していくことから、人材不足を補うためにもDX化を推進していくことが求められる。
- ・自治体においてもビッグデータの活用、AI、RPAの導入など、業務の効率化、省力化、サービスの向上を図るために自治体のDX化を進めていく必要がある。

⑤ 産業活性化への対応

- ・世界的に新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、人々の暮らしや産業に大きな影響を与えた。その後の円安、物価高などの影響による消費の落ち込みもあり、コロナ禍前の経済に回復できていない状況が続いている。
- ・バスを中心とした公共交通体系を形成する本町において、5類移行により回復しつつあった事業者は燃油価格高騰や人手不足により再び厳しい状況を迎えている。
- ・また、S J（スペースジェット）の開発中止を受け、関連事業者の誘致が困難となったことも踏まえ、町の産業振興を考えていく必要がある。
- ・本町は、県営名古屋空港を始めとした、あいち空港ミュージアム、航空館 boon など航空関連の施設や、名古屋市中央卸売市場北部市場、大規模商業施設など、特徴ある資源を有している。さらに、今後は愛知県基幹的広域防災拠点、賑わい施設など新たなランドマークとなり得る施設の整備が予定されている。これらの資源を最大限に活用し、関係人口・交流人口増加に向けた取組を進めていくことが必要である。
- ・県内外からの来町者に対し、近年普及の進んでいるSNSなどを活用したまちの魅力発信を強化していくとともに、官民が連携しながら賑わいの創出に努めていくことが必要である。

⑥ 厳しい経済・財政状況への対応

- ・前期計画がスタートした令和2年度から、新型コロナウイルス感染症により世界中の経済活動・社会活動が制限され、限定的ではあるものの、本町においても町税への影響があった。
- ・また、ロシアのウクライナ侵攻などにより燃料費の高騰や原材料の上昇など物価が高騰しており、その影響はまだ見通せていない状況にある。
- ・さらに、今後は、少子高齢化に伴う扶助費の増加は避けられず、また、賑わい施設の整

備や豊山中学校などの老朽化した公共施設の整備が控えていることから、大変厳しい財政状況が続くと予想される。

- ・限られた財源の中で、継続的に安定した質の高い行政サービスを提供するため、必要性・有益性を勘案した事業の取捨選択や新たな財源確保に向けた取組が求められている。

2 前期計画期間における前期計画の主な取組と後期計画に向けた課題

目標 1 快適で活気あふれるコンパクトなまち

小さな行政面積の中に、日常生活を送る上で必要な都市の施設や機能が集約され、農地や公園などとともに大都市にはないぬくもりのあるコミュニティ空間を形成し、徒歩や自転車でも移動可能な快適で活気あふれるコンパクトなまちを目指します。

<p>1-1 土地利用</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <p>○愛知県基幹的広域防災拠点に隣接する、臨空第2公園(避難所及び賑わい施設)の整備計画、設計、調査などを進めている。</p> <p>○愛知県基幹的広域防災拠点・賑わい施設の整備に対応するため、産業建設部に防災拠点推進室を新設した。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <p>●町を取り巻く情勢の変化に合わせて適正な土地利用を推進していく必要がある。</p>
<p>1-2 公園・緑地</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <p>○愛知県基幹的広域防災拠点に隣接する、臨空第2公園(避難所及び賑わい施設)の整備計画、設計、調査などを進めている。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <p>●民間活力の導入も検討しながら、臨空第2公園(避難所及び賑わい施設)の整備を推進する必要がある。</p> <p>●都市公園、児童遊園等は施設の経年劣化による故障や破損の恐れがある。</p>
<p>1-3 道路</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <p>○愛知県基幹的広域防災拠点及び臨空第2公園(避難所及び賑わい施設)の整備に係る周辺道路整備に着手した。</p> <p>○大山川堤防道路を供用開始した。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <p>●財政状況が厳しい中、優先度を決めて計画的な整備や維持管理などを行っていく必要がある。「道路管理計画」や「橋梁長寿命化計画」に基づきながら、実際の状況も考慮しつつ、計画的に道路等の管理をしていく必要がある。</p>
<p>1-4 上下水道</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <p>○愛知県基幹的広域防災拠点及び臨空第2公園(避難所及び賑わい施設)の整備に係る下水道整備に着手した。</p> <p>○下水道については、公共下水道事業の計画に基づき、計画的な整備を進めている。</p> <p>○公営企業会計へと移行するための作業を進めている。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <p>●下水道事業を持続的・安定的に提供するための対策を考えていく必要がある。</p> <p>●経営の安定化のため、水洗化率の向上に向けた取り組みを強化する必要がある。</p> <p>●上水道の老朽管の更新や耐震化を図る必要がある。</p>

目標2 自然にも人にも優しい持続可能なまち

地球規模で求められている低炭素社会や循環型社会の重要性もふまえ、生物多様性の確保、豊かな緑の創出など、持続可能なまちづくりを推進し、自然にも人にも優しいまちを目指します。

<p>2-1 住宅・景観</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○倒壊又は建築材等の飛散のおそれのある危険な空家の解体工事への補助を開始した。 ○木造住宅の耐震補助メニューの充実に向け、民間木造住宅除却費への補助を追加した。 ○豊山第1住宅の耐震改修を支援した。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●耐震対策や空家対策は、啓発や補助制度の充実を通して、所有者の意識を高めていくことが必要である。 ●屋外広告物については、未申請物件の把握及び勧奨を継続する必要がある。 ●町営住宅は、竣工後35年以上経過しており、施設の老朽化が進んでいるため、長寿命化計画に基づく計画的な工事が必要である。
<p>2-2 環境衛生・循環型社会</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○協働によるきれいなまちづくりの推進のため、「きれいなまちづくり条例」を制定した。長年にわたりきれいなまちづくりに貢献した町民を表彰した。 ○町民、事業者との協働事業として「ピカッと隊(530 運動)」を募り、きれいなまちづくり推進のため町内のごみ拾いを実施した。 ○犬のふん害を減らすこと及び地域の自衛マインドを醸成することを目的として「イエローチョーク作戦」を実施した。 ○家庭等でのごみ減量対策の啓発を目的として段ボールコンポストの実証実験を実施した。 ○飼い主のいない猫を増やさない取組として、不妊手術支援を開始した。 ○SDGs、4Rの推進を目的としたフードドライブを実施した。 ○ごみ減量へ向けた取組として、家庭ごみの実態調査を実施した。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●プラスチック新法に基づき、町の廃棄物の収集方法を見直していく必要がある。 ●可燃ごみの1人あたりの排出量は、愛知県内で下位となっており、より一層の啓発に努める必要がある。
<p>2-3 自然との共生・エネルギー</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○町民が「SDGs」を身近なところからとらえる機会を創出するため、ジョギングをしながらごみ拾いをする新しいフィットネス「プロギング」を実施した。また、子どもたちへ環境と資源循環を教育するため、コンポスト導入事業を進めている。 ○脱炭素化に向けた取組として、公用車に電気自動車を導入するとともに、急速充電スポットの設置を進めている。 ○行政運営における温室効果ガス排出量及び消費電力の削減を目的として、公共施設における照明設備のLED化を推進した。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境保全には町民一人ひとりの意識の向上と実行が必要であることから、意識啓発に向けより効果的な事業を企画する必要がある。 ●SDGsやカーボンニュートラルなどに関する取り組みを強化する必要がある。

目標3 安全・安心で住みやすさを実感できるまち

住民とともに、災害や犯罪、交通事故のない安全でユニバーサルデザインに配慮した環境整備や交通網の充実などを推進することにより、安全・安心、快適で便利な生活環境を実現し、住みやすく魅力あるまちを目指します。

<p>3-1 交通機関</p>	<p>前期計画中の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○とよやまタウンバス南ルート車両に、利用者が乗降しやすい低床車両を導入した。 ○とよやまタウンバス北ルートについて、町民の方が多く利用する商業施設への乗入れや青山高添バス停での「こまくる」「きたバス」との乗継など、利便性の向上に努めた。 ○タウンバスの通過停留所や遅れ時間などが確認できるバスロケーションシステムの導入、運賃支払いへ電子マネーを導入するなど、デジタル化による利便性向上を図った。 ○コロナ禍で航空機利用者が低迷する中、県営名古屋空港の利用促進のため、空港利用助成の拡充を実施した。 <p>後期計画に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県営名古屋空港の利用促進については、近隣自治体や関係団体と連携を図り、就航先を含め広域的な利用促進に努めていく必要がある。 ●コミュニティバス以外の新たな交通手段導入への取組が必要である。 ●バスのルートについては、愛知県基幹的広域防災拠点と臨空第2公園の整備を見据え、周辺自治体と連携し、コミュニティバスのあり方を含めた公共交通全体を見据えた取組が必要である。 ●高齢者の移動手段の確保が必要である。
<p>3-2 消防・防災</p>	<p>前期計画中の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大規模災害時に着実な支援が受けられるよう他県自治体と災害支援協定を締結した。 ○災害の被害を最小化し、迅速に回復することができる「強くしなやかなまち」を築くため、豊山町地域強靱化計画を策定した。 ○防災ガイドブックを作成し、住民の防災意識の向上に努めた。 ○浸水リスクを軽減するため、久田良木川排水機場の排水能力増強工事、境川の河川改修工事を進めている。 ○災害時の生活用水を確保するため、豊山中学校へ防災井戸の設置を進めている。 <p>後期計画に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新たな感染症へのリスクを踏まえ、避難所運営を行う必要がある。 ●南海トラフ地震等の大規模災害を見据え、避難所の環境整備や高齢者・障がい者など要支援者の支援体制の強化や、既存の防災倉庫のあり方の見直しが必要である。 ●避難所が不足している青山地区に新たな避難所を整備する必要がある。 ●自主防災組織については、組織の自主性・防災意識向上に向けた取組が必要である。また、高齢化の進展により、若者を取り込む必要がある。
<p>3-3 防犯・交通安全</p>	<p>前期計画中の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通弱者の安全・安心のため、特に生活道路における交通安全対策として志水小学校区へのゾーン30プラス導入を進めている。 ○通学路安全点検に基づきカラー舗装等を実施した。 ○登下校時の児童を守る取組として、「こども110番の家」のマップを作成した。 ○自転車による死亡事故を防ぐため、自転車用ヘルメットの助成を拡大した。

	<p>○自動車の速度抑制のため、町道58号線に交差点ハンプと狭さを設置した。</p>
	<p>後期計画に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none">●交通安全協会や防犯協会については、会員の高齢化による担い手不足への対策が必要である。●更なる交通安全や防犯対策を推進するため、制度の充実を図っていく必要がある。

目標4 助け合い、支え合う健康であたたかなまち

住み慣れた地域の中で、住民や団体などが助け合い、支え合いながら、行政との協働のもとで、健康で笑顔があふれる暮らしを実現できるあたたかな福祉文化のまちを目指します。

<p>4-1 健康づくり</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○がん検診に胃内視鏡検査を導入し、またコールセンターによるがん検診の受付を開始した。 ○がん患者への支援として、がんアピアランスケア用品購入補助事業、若年がん患者ターミナルケア支援事業を開始した。 ○すべての妊婦や子育て家庭が安心して出産・育児できるよう伴走型相談支援を充実し、出産・子育て応援交付金事業を開始した。 ○住民が生涯にわたり健康で質の高い生活を送ることができるよう、歯と口腔の健康づくり推進条例を制定した。 ○屈折異常、斜視等を早期に発見し、早期治療につなげるため、3歳児健康診査に屈折検査機器を導入した。 ○多胎妊婦への支援として妊婦健康診査費の追加補助を開始した。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●母子保健では、出産・育児に関する不安や孤立を解消するため、関係機関と連携しつつ、切れ目のない支援の充実を図る必要がある。 ●成人保健では、新型コロナウイルス感染症の影響で、がん検診受診者が少なくなっていることから、受診率向上に向け更なる取り組みが必要である。
<p>4-2 地域福祉</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、住民税非課税世帯等に対して臨時特別給付金など必要な支援を行っている。 ○総合福祉センター南館ひまわりにおいて、屋上防水工事、空調工事、外壁、窓建具の工事を実施した。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●困難や生きづらさを抱える人々を支援するため、関係機関との連携強化を図りつつ、重層的支援体制を充実していく必要がある。 ●犯罪や非行をした人の円滑な社会復帰や、被害を受けた方への支援を関係機関と調整しながら実施していく必要がある。
<p>4-3 子育て支援</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○放課後の子どもの居場所を充実させるため、放課後子ども教室を全小学校で実施し、週5日開催にするなど、制度を拡充した。 ○子ども施策を包括的に支援するため子ども応援課を設置した。 ○アプリでの予約システムや電子母子手帳の導入など、デジタル化による利便性の向上を図っている。 ○0歳・1歳児保育の受入施設に青山保育園を追加し、病後児保育を開始するなど保育サービスの充実を図っている。 ○子ども記者、子ども議会、子ども消防クラブなど、子どもがまちづくりについて楽しみながら学び、考えることのできる機会を提供した。 ○妊産婦ヘルパー派遣事業の開始、新生児への特別給付、妊産婦・乳児の医療機関での産後ケア、結婚新生活支援事業など、子育て世代への包括的支援を拡充している。

	<p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童の権利に関する条約を尊重し、全ての子どもを社会全体で支援する必要がある。 ●児童虐待やヤングケアラーへの支援体制を充実する必要がある。 ●放課後児童の居場所づくりを充実する必要がある。 ●保育現場でのこどもをめぐる事故や不適切な対応などへの不安を払拭し、安心してこどもを預けられる体制を整備する必要がある。 ●育児の孤立を防ぐため全ての子育て家庭が利用できる通園制度創設が必要である。 ●施設老朽化や保育士確保、保育園の将来のあり方などを検討して持続的に保育を提供できる環境を整える必要がある。
4-4 高齢者福祉	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の生活支援のため、敬老祝商品券、高齢者生活応援商品券を発行した。 ○フレイル予防対策としてウォーキングマップを作成し、ウォーキングイベントを開催した。 ○高齢者の外出支援を促進するため、令和4年度は2週間、令和5年度は1か月間、「おでかけパス」による町内運行バスの高齢者割引制度を実施した。 ○高齢者の見守り支援のため、見守りセンサーの設置、人感センサーを利用した見守り支援を実施した。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●要介護認定者の約3割が施設等への入所・入居を検討している状況を踏まえ、適切な施設整備に努める必要がある。 ●高齢化が進む中、介護予防事業の推進や給付費の適正化に努める必要がある。 ●長寿祝い金など高齢者向けの施策については、事業継続の可否を含め判断する必要がある。 ●高齢者の移動手手段の確保が必要である。
4-5 障がい者福祉	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○障がい者福祉タクシー料金について、ガソリン料金の助成も選択できるようにした。 ○ストーマ装具などの障がい者日常生活用具給付等事業の自己負担額を撤廃した。 ○日常生活用具給付等事業の対象品目を拡大した。 ○2市1町(清須市、北名古屋市、豊山町)に障害者グループホームこだちが開所した。 ○手話通訳者設置の日数を週2日から週4日にし、制度の拡充を行った。 ○2市1町(清須市、北名古屋市、豊山町)に地域生活支援拠点が開所した。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい者の困難ケース等に対する相談体制の強化が必要である。 ●精神保健施策の充実に向け、相手の心に寄り添う取組について継続して実施していく必要がある。 ●障がいのある方が安心してサービスを利用できる環境を維持し、自立した日常生活や社会生活を営むことができる地域共生社会の実現に向けた取組が必要である。
4-6 医療保険	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども医療費無償化の対象を18歳以下に拡大するなど、子育て世代への支援を充実させた。 ○介護と保健の一体化事業を進めている。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●健全な国民健康保険制度の運営を行うため、適正な税率を毎年度検討しながら、法定

	<p>外繰入金の削減を行うとともに、医療費の適正化を図る必要がある。</p> <p>●併せて、納税相談や定期的な催促などの収納対策を行い国民健康保険税の収納率を上げる必要がある。</p>
--	---

目標5 いきいきと豊かな心を持った人を育むまち

子どもからお年寄りまで、ライフステージや能力・意欲に応じた学習活動や社会活動に取り組むことができ、学校と家庭、地域の一層の連携のもとで学校教育の充実を図り、豊かな心を生きる力に満ちた人を育むまちを目指します。

<p>5-1 生涯学習</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u> ○生涯学習審議会において議論した結果や住民ニーズ等を各事業に反映し、「いつでも」「どこでも」「だれでも」学ぶことができる機会の提供や、町民が安心して利用できる社会教育施設の整備を推進した。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u> ●引き続き、生涯学習講座内容を時代や住民ニーズに応じて見直していく必要がある。 ●ボランティアの養成や指導育成など指導者の確保策に努めるとともに、参加者が学習した知識・技術を将来的に指導者として地域参画活動や社会貢献に活かせるよう、学びの循環を創出していく必要がある。 ●部活動の地域移行に伴い、総合的に検討し、豊山町としての方向性を見極めていく必要がある。 ●社会教育センターの長寿命化計画は、本町における大規模投資事業と調整の上、優先順位の組み替え、適正規模の見極めを行いながら、進めていく必要がある。</p>
<p>5-2 家庭教育</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u> ○乳幼児や親子を対象とした交流や情報交換の機会の拡充、思春期の子どもの保護者を対象とした学習機会の提供について、社会情勢や住民ニーズを踏まえ、時宜を得た事業を実施してきた。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u> ●より多くの住民に、真に必要な情報が届くよう、啓発方法・実施方法の検討が必要である。 ●引き続き、住民を取り巻く様々な社会環境の変化を踏まえ、事業を企画していく必要がある。</p>
<p>5-3 学校教育</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u> ○新たな学びへの対応として、令和2年度に小中学校の Wi-Fi 環境を整備し、児童生徒に1台ずつタブレット端末を配備した。またその活用を支援するため、令和5年度から小中学校を巡回する ICT 支援員を配置している。 ○子どもたちがのびのびと学習ができる環境を整備するため、令和2年度に小中学校特別教室へ空調機器を整備した(普通教室へは令和元年度整備済)。また、令和4年度に豊山小学校トイレの全面改修工事を行った。 ○児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行うため、スクール・ソーシャル・ワーカーを配置している。 ○安全で安心できる学校給食を提供するため、新給食センターを整備し、食物アレルギー対応給食の提供を開始した。 ○豊山中学校施設整備基本構想会議を実施し、「目指すべき中学校のあり方」を公表した。 ○子どもたちに学校の校庭を開放し、放課後の子どもの居場所づくりの充実に努めた。</p>

	<p>後期計画に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●デジタル化、価値観の多様化など新しい課題への対応をしつつ、引き続き、子どもたちの健やかな成長を支える必要がある。 ●学校施設の老朽化対策については、学校運営に支障が出ないように修繕を進めつつ、豊山町学校施設改築・長寿命化計画の推進を図る必要がある。
5-4 芸術・文化	<p>前期計画中の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町制施行 50 周年を契機に、郷土資料室のリニューアル、特別企画展の開催、新しい町誌の刊行を行った。 ○豊山町初の吹奏楽団、豊山ウインドオーケストラが発足するなど、若い世代が中心となり新しい文化をこの地域に根差そうと活動し始めた。 ○令和4年度に開催した「豊山音楽の日」では、名古屋フィルハーモニー交響楽団と豊山中学校吹奏学部、豊山ウインドオーケストラによるコンサートを実施し、町民に質の高い芸術・文化に直接触れる機会や、新たな文化活動の場を提供した。 <p>後期計画に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●伝統文化や寺社寺院の保存や継承に努めるとともに、新たな文化の創造を図り、伝統と革新とが調和した文化振興を推進する必要がある。 ●引き続き時宜を適切にとらえた事業を実施し、町の魅力を PR していく必要がある。 ●伝統芸能や文化の継承にあたり、将来を担う子どもたちについていかに興味を持たせるかが課題である。
5-5 スポーツ	<p>前期計画中の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長年の課題であった「総合型地域スポーツ・文化クラブ」を設立した。多くのプログラムを通じて多世代が参加できる文化・スポーツ活動の場を提供し、地域の生涯スポーツ社会を推進した。 ○町民体育大会は従来の地域対抗競技に拘らず、子どもたちが参加できるオープン競技や老若男女を問わず町内で活動する団体が競い合う団体競技など、誰もが参加でき、楽しめる工夫を凝らした大会にリニューアルした。 ○愛知駅伝にただ参加するだけでなく、「チーム強化」と「広報」を積極的に行うことにより、町全体で豊山町チームを応援する機運を高めることができた。 <p>後期計画に向けた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「部活動の地域移行」を見据え、地域の生涯スポーツを支える指導者などの育成・確保に重点を置く必要がある。 ●「多様目・多世代・多志向」のアプローチを維持し、子どもからシニアまで幅広い人々が楽しめるプログラムを提供することが重要である。 ●老若男女を問わない、誰でも参加しやすいスポーツイベントを充実していくことで、スポーツを実践するきっかけを作る必要である。 ●愛知駅伝を町の生涯スポーツのシンボリックイベントとして盛り上げることにより、町の賑わいの創出につなげていく必要がある。 ●年々厳しさを増す気候に対応しつつ、年間を通して利用者が安全に施設を利用できるよう、引き続き施設の安全性の確保が必要である。

目標6 にぎわいを生み出す個性豊かなまち

空港やその周辺の企業・施設などを活かした航空宇宙産業をはじめとする産業の育成を図るとともに、農業の振興、既存の商工業や観光の振興などの産業振興を行い、にぎわいを創出する個性豊かなまちを目指します。

■基本施策ごとの前期計画中の主な取組と後記計画に向けた課題

<p>6-1 商工業</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、町内経済が回復しきっていない状況の中、プレミアム商品券・生活応援商品券の発行や新商品開発チャレンジ補助金の導入など、事業者を支援し、地域産業を育成する取組を推進してきた。</p> <p>○事業者の新型コロナウイルス感染症への対応を支援するため、環境整備事業費補助金やあいスタ認証取得支援金などの補助を行った。</p> <p>○中小企業の販路拡大を支援するため、中小企業販路開拓支援補助金を新設した。</p> <p>○豊山町商工会の活性化のため、キッチンカーの導入を支援した。</p> <p>○就航先同士の互いの特産品を活用した新商品開発を支援するため、就航先事業者と町内事業者とのマッチングを推進した。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●中小事業者の事業継承や創業者支援など、地域産業の維持継続対策が必要である。 ●官民連携、産学官連携で引き続き地域産業を育成する取組が必要である。 ●県営名古屋空港や北部市場が立地するという強みを最大限活用していく必要がある。
<p>6-2 農業</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <p>○農地が減少する中、農業施設の計画的な維持管理・更新を実施してきた。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●農業振興は困難な状況であるが、用水路、堰(せき)、ポンプなどの農業施設の計画的な改修、維持が必要である。 ●市民農園の維持継続に向けた取組が必要である。
<p>6-3 観光</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <p>○豊山町の魅力をPRするため、特別編集「るるぶ豊山町」を作成した。</p> <p>○デジタル化が進展している状況を踏まえ、インスタグラムを活用したフォトコンテストを開催するなど、SNSによるPRを積極的に推進している。</p> <p>○トップセールスやイベントでのブース出展など、FDAの就航先との連携強化に努めた。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●空港が立地するという強みを活かし、今後も、「ヒコーキのまち」をテーマとして、町の魅力や賑わいの創出に努める必要がある。 ●関係人口・交流人口の増加に向け、SNSを活用した観光情報発信を強化するとともに、観光誘客の促進に向けて周辺地域や空港就航先などの関連地域と連携して取り組む必要がある。 ●愛知県基幹的広域防災拠点や臨空第2公園を新たな観光資源として、魅力化などを検討していく必要がある。

目標7 住民と行政がともに考え、ともにつくる信頼のまち

安定した行財政基盤の構築を進めるとともに、自助・共助・公助の理念を尊重し、情報の提供と共有、様々な交流や連携で人材育成を進め、住民と行政が共に考え、行動し、協働と信頼のもとに支え合うまちを目指します。

<p>7-1 協働</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u> ○町制施行50周年記念事業について、町民・企業との協働により、24時間テレビとコラボしたとよやまDEないと、本町初となる花火大会など、様々な事業を実施した。 ○町民の自主的な活動を促進し、団体間のつながりを強化することを目的として、本町初となる協働フォーラム「とよやまの森」を開催した。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u> ●住民活動団体の自主的な活動が進むよう、支援体制の充実と町民の町政への関心を高める機会を創出する必要がある。</p>
<p>7-2 コミュニティ</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u> ○地区の声を聞き、地区を支援する取組として、「地区担当制度」を開始した。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u> ●従来の在り方にとらわれない豊山町における新しいコミュニティ形成に向けた取組が必要である。</p>
<p>7-3 交流・共生</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u> ○誰もが自分らしく生きることができる社会の実現に向け、県内町村初となるパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入した。 ○コロナ禍において、友好交流都市であるアメリカワシントン州グラント郡や北海道せたな町とオンライン交流などの交流を続けてきた。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u> ●多様性を大切にできるまちの実現に向け、性的少数者を始めマイノリティに配慮した取組を進めていく必要がある。 ●アフターコロナにおいて、町民の友好都市・姉妹都市への理解をより一層深めるため、交流を活発化させる必要がある。</p>
<p>7-4 行政運営</p>	<p><u>前期計画中の主な取組</u> ○「第6次豊山町行政改革大綱」を策定。3つの改革の柱(人材育成と組織の強化、業務等の効率化、地域協働の推進)を中心に、9つの改革項目を掲げ、各種分野で行政改革を推進した。 ○複雑化する新たな課題に対し、町の重要政策の企画立案や調整機能を強化するため、企画調整部を設置するとともに、DX推進に向けた取組を強化するため、デジタル化推進室を設置した。また、限られた人材の効果的な配置と若手職員の役職者登用を図るため、グループ制を導入した。 ○デジタル技術の活用による行政サービスの維持・向上を目指すため、豊山町DX推進計画を策定した。 ○住民の利便性向上のため、役場窓口やオンライン申請によるキャッシュレス決済を導入した。また、業務の省力化・効率化を図るためRPAや議事録作成システムを導入した。 ○総合福祉センターにおける事務の効率化とサービス品質の向上を目的として、指定管理</p>

	<p>者制度を導入した。</p> <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●行政サービスのデジタル化(AI 活用、オンライン手続き等)の推進が必要である。 ●役場の既存業務を洗い出し、見える化した上で取捨選択が必要である。 ●人口減少社会を見据え、関係人口・交流人口の増加を図るため、町の新たな魅力の創出など、ブランディングに取り組む必要がある。 ●SDGs を官民一体となり達成できるよう、普及・啓発を強化していく必要がある。
7-5 財政運営	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○国・県補助金の積極的な活用、有料広告の募集、ネーミングライツ等による自主財源の確保、施設使用料の見直し等、歳入確保に努めた。 ○ふるさと寄附金の寄附額増加に向け、新商品開発チャレンジ補助金制度の開始など、返礼品の充実に向けた取組を実施した。また、ふるさと寄附金ポータルサイトを追加し、ふるさと寄附金制度の効果的な活用を図った。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●愛知県基幹的広域防災拠点や老朽化した公共施設の整備などの大規模事業が控える中、先行きが不透明な物価高騰の状況も勘案し、新たな財源確保、既存事業の見直しなどに積極的に取り組んでいく必要がある。 ●ふるさと寄附金による税の流出を防ぐため、引き続きふるさと寄附金の寄附額増加に向けた取組が必要である。
7-6 広域行政	<p><u>前期計画中の主な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊山町・北名古屋市で構成する北名古屋衛生組合と名古屋市が共同でゴミ処理施設「名古屋市北名古屋工場」を建設し、本格稼働を開始した。 ○北名古屋衛生組合が名古屋市北名古屋工場の余熱を利用した温水プールを整備した。 <p><u>後期計画に向けた課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●西春日井広域消防組合の消防本部庁舎については、建設されてから約50年が経過している庁舎があることから、施設の老朽化や耐震への対策が必要である。